令和６年４月３日

南の風第 55 回全国ミニバスケットボール大会特集号

南部地区ミニバスケットボール連盟
会　長　藤原　敬一

「いやー強かったです！！」　福岡県の女子代表、壱岐リトルソニックス、「tough」をスローガンにしている福岡県西区のミニバスチームです。ヘッドコーチは中嶋 基喜氏です。

今回は壱岐リトルソニックスを中心に、全国大会女子のゲームを特集します。

≪壱岐リトルソニックスの今年度の成績≫

福岡県選手権大会　　２連覇（昨年度に続き全国大会出場）
ALL 関西大会（交流）　２連覇（史上初）
昭和カップ　　２連覇（全国の強豪が参加する、愛知県昭和ミニバスが主催）

九州大会は福岡県の２位、３位が出場したため出場はなし

※その他、出場した市大会、九州地区大会はすべて優勝。令和４年度から令和５年度全国大会終了まで、一度も負けなしのチームです。

観戦しての感想を書きます。壱岐リトルソニックス（福岡）VS 雀宮スポーツ少年団（栃木）のゲームです。

まず気がつくことは、壱岐のフットワークと体幹の強さです。ディフェンスの強さに表れていました。スタンス、フットワーク、ハンドワーク、そして予測はとても小学生とは思えないものです。

終始オールコートのプレスディフェンスを持続し、ボールマンに対するディスタンスがワンアーム以内でした。また、ドリブルに対する一歩目の反応は、１Ｑの５人（３番、０番、１１番、１４番、２番）とも徹底していました。トラップに行くタイミングも絶妙（ボールマンディフェンスによりドリブラーの視野が消され時）で、それに伴うボールマンが慌てて出すパスに対するカットの連動性も見事でした。

さらに気がつくことは、ボールマンのドリブルに対する一歩目のフットワークの使い分けです。相手がランニングミートして加速しそうな場合は、最初からリリーススステップ（クロス）、スタンディングでキャッチしドリブルする時は、ステップ・ステップかサイドステップで対応していました。こういった使い分けを実戦でやる切ることは、小学生にとってかなり難しいものです。

また目立ちませんがハンドワークも見る価値がありました。ボールマンに対するウイングスパン（手を広げて守る）、トラップ時のスティックによる視野の消し方など、細かいところまで全員が徹底していた感じです。

もう一つ、プレス時における２線、３線の役割も、選手一人ひとりが理解し判断して取り組んでいました。ボールとマイマンの守り方は小学生にはハードルが高いのですが、やり切っていました。

もちろん、今書いたことがすべてうまくいったわけではありませんが、豊富な練習量と積み重ねた経験が垣間見えました。

相手チームにとって、壱岐のディフェンスは相当やっかいなものだったと思います。ちょっと油断すると、あっという間にパスカットから一気に畳みかけて点を取られます。壱岐が戦った３試合ともこのディフェンスは徹底されていました。

観ていた多くの方が中学生レベルと感じたと思います。　　特集Ⅱ号に続けます。